

青 防 号 外
令和8年2月13日

報道機関各位

青森県危機管理局防災危機管理課長
(公 印 省 略)

2026 あおもり積雪期避難所演習の開催について

県ではこのたび、国立大学法人弘前大学及び一般社団法人避難所・避難生活学会等との共催により、積雪期の避難所体験を通じて良好な避難所環境の整備につなげていただくため、市町村職員等を対象とした標記演習を開催することとしましたのでお知らせします。

記

1 日 程

令和8年2月21日（土）13:00～22日（日）12:00

2 場 所

弘前大学文京キャンパス 第二体育館、オープンイノベーションプラザ
(弘前市文京町1)

3 その他の

詳細内容は別添開催要項のとおり

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	危機管理局防災危機管理課 危機管理対策グループ 総括主幹 山口 哲史
電話番号	直通 017-734-9088 内線 4120
報道監	危機管理局次長 佐藤 広之

2026 あおもり積雪期避難所演習 開催要項

1. 開催趣旨

近年、地球温暖化に伴う環境の変化により自然災害が激甚化・頻発化しているほか、戦争や人為的な災害など予想を超える甚大な災害が発生している。そこで、原子力災害を含む広範にわたる災害に対する準備をしておくことが、被害を最小限にし、住民の安全を担保することに寄与するとの考えから、弘前大学では、令和6年度から複合災害看護教育プログラムを設置し、災害に強い医療人材の輩出を行っている。

自然災害等の災害が発生すると住民は避難所に避難することとなるが、特に酷暑期や厳冬期など、劣悪な環境下における災害関連死の発生を予防するためには避難所の環境を整えることが非常に重要である。大規模災害が発生するたびに災害関連死が発生するわが国では、避難所資機材等の備蓄状況は必ずしも十分とは言えない現状にあるが、その限られた備蓄をどのように活用して住民の安全を守るのかについて考えるため、当事者が自ら避難所体験をすることで今後の対応方策の検討に活かすことが求められている。

2. 目的

- ・積雪期災害の特徴や避難所運営上の留意点、災害関連死の予防に関する知識や技術を身に着ける。
- ・自治体の備蓄や災害対応の現状を共有し、積雪期の避難所環境整備に必要な備蓄について検討する。
- ・越境型相互支援体制や顔の見える関係を構築し、青森県の防災力を向上させる。
- ・研究活動により、積雪期災害および避難所の課題と対策について検討する。

3. 日時

2026年2月21日（土）13時～22日（日）12時

4. 場所

弘前大学 文京町キャンパス 第二体育館、オープンイノベーションプラザ
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地（会場へのアクセス方法は後日連絡）

5. 対象者

(1)現地参加：青森県内の自治体職員・防災関係者、大学生・大学院生、災害ボランティア関係者

計50名程度

(2)物資支援：青森県内の自治体

※本演習は各自治体から持ち寄られた備蓄で運営されます。段ボールベッドや食料品など貸与・提供が可能な備蓄がありましたら、支援をお願いします。支援参加自治体には、演習終了後に内容や結果の詳細を共有します。支援可能な自治体は、申し込みフォームよりお知らせください。

6. 参加費および持参品

<参加費>無料

<持参品>○自治体の備蓄：段ボールベッド、折りたたみベッド、折りたたみテント、非常食（アルファ化米、レトルト食品、缶詰、その他）、飲料水、生活用水、暖房器具など

○個人の装備品：動きやすく温かい服装、手袋、帽子、冬用寝袋、懐中電灯、着替え、上履き、不織布マスクなど

※持参推奨：毛布、敷マット、タオル、清潔用品（シャワー等はありません）など

※自治体や個人の備蓄品を持参し、効果等を確認ください。

※期限切れ間近の備蓄や多めに持参可能な備蓄品があればお持ちください。

<貸与> 段ボールベッド、個人用テントは、持ち寄られた備蓄から1人1セット配分調整します。

7. スケジュール

13:00	開会式	
13:15	講 演	避難所について、積雪期災害について
15:30	演 習	避難所設営
17:00	演 習	避難所運営
18:00	夕 食	
20:00	交流会	参加者での情報交換（希望者）*
22:00	就 寝	睡眠計測、睡眠環境測定
6:00	起 床	
7:30	朝 食	
9:00	演 習	ディスカッション「積雪期避難所における健康被害を防ぐための課題抽出と対策の検討」
11:30	閉会式	

※交流会について

- ・1日目 20時から交流会を企画しています。
参加は自由です。
- ・参加者個人、自治体、関連機関紹介など、
情報交換の場としたいと思います。
- ・自治体や関連機関のPRなど、発表を希望
する方は、是非ご準備ください。
(PCやモニターなど使用可能)

8. 研究活動について

積雪期避難所の運営や環境改善のため、研究活動を行います。

演習の際に詳細を説明し、同意を得られた方にご協力をいただきたいと思います。

9. 公表・メディア

演習成果を広く防災関係者や住民の皆様に周知するため、個人情報に十分配慮したうえで、学会発表や論文、そして、新聞、テレビ等すべてのメディアに公開・公表します。

10. 安全策について

1) 安全管理

- ・基本的に各自で寒さ対策と安全管理をお願いします。
- ・低体温症の予防のため、暖房を完備した部屋を準備しています。
- ・演習中は医療者が常駐し、参加者の身体状態を観察します。体調不良の症状・疑いがある場合は、すぐに演習参加を中止し、医療機関を受診できる体制としています。
- ・本演習は、イベント保険に加入しています。

2) 防犯管理

- ・貴重品は自己管理とします。
- ・宿泊する避難所の区分けは、参加者の安全に配慮し、参加者の意向を確認して調整します。

11. 実施体制

主催：「SAVE LIFE あおもり」実行委員会・青森県・弘前大学

共催：避難所・避難生活学会

12. 申し込みおよび問い合わせ先

現地参加者は各個人で、QRコードまたはURLからお申し込みください。

物資支援可能な自治体は、担当者よりお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/7emvCRzNFr> 期限：2026年2月6日12:00

問い合わせ先

弘前大学大学院保健学研究科 因直也

TEL：0172-39-5951 E-Mail：in1105@hirosaki-u.ac.jp

申し込みフォーム

お一人ずつで申込ください

